



令和3年度 喜来小学校学校評価について

令和3年度の学校評価を行うにあたり、教職員・児童・保護者にアンケートを実施しました。教職員のアンケート結果を基にして、児童・保護者のアンケート結果を重ね合わせて自己評価を行い、本年度の重点目標の達成状況と来年度に向けての課題を明らかにしました。

※評価結果の表示について

A 十分達成できている B ほぼ達成できている C あまり達成できていない D 達成できていない

※数字(%)は、肯定的評価 教職員は(そう思う+だいたいそう思う) 児童・保護者は(よくあてはまる+ややあてはまる)を表す。

1. 本年度の重点目標 「よりよくかわる 喜来小学校」 【A】

日常の子どもたちの学習や生活の様子から、子どもたちは楽しく充実した生活を送っていると感じます。6学年を中心に、自主的に清掃活動を行ったり子どもたちが主体的に考えて行動したりする場面が増え、「よりよくかわろう」「喜来小学校をよりよくしよう」という意識が次第に広がっているように感じます。

児童のアンケート結果では、「学校は楽しい」と答えた児童は93%でした。「困ったことや悩みがあった場合、先生は相談にのってくれる」と答えた児童が94%、「先生はいじめのない学校にしようとしている」と答えた児童が98%で、昨年に引き続き、喜来小学校の子どもたちにとって、学校、学級が安心して過ごせる居場所になっているようです。

保護者のアンケート結果では、20項目のうち19項目で8割を超える肯定的評価をいただいております。学校の取り組みについてご理解、ご協力をいただくことができていると感じております。ありがとうございます。

教職員のアンケート結果も、本年度の学校運営や教育活動に対して、ほとんどが肯定的評価でした。

コロナ禍で様々な教育活動が制約を受ける中、昨年度と同様に本校教育活動に肯定的評価をいただいていることから、「よりよく かわる 喜来小学校」については「A」と評価しました。

2. 実践事項

(1) 基本的生活習慣の定着 【B】

〈教職員〉

- ・あいさつの徹底・喜来小学校5つの心
- ・規範意識の向上(きまりの理解と遵守、交通安全指導の徹底)

〈児童〉

- ・あいさつや正しい言葉づかいができています
- ・学校のきまりを守り、安全に気をつけています

〈保護者〉

- ・お父さんは、気持ちのよい挨拶や場に合った言葉遣いができています
- ・お父さんは、学習や仕事などを根気強く最後までやりとげている

	R1年度		R2年度		R3年度
70%	↗	95%	↘	90%	
55%	↗	100%	↘	90%	
90%	↘	86%	↗	88%	
94%	↗	97%	↘	93%	
76%	↗	78%	↗	84%	
72%	↗	77%	↗	84%	

◆ご家庭での生活習慣確立のためのご支援が基本的生活習慣の定着につながっていると感じます。気持ちのよいあいさつや正しい言葉づかいが児童の身に付くよう、今後もご家庭と連携して取り組んでまいります。

(2) 豊かな仲間づくりの推進 【A】

〈教職員〉

- ・自尊感情の向上(互いを認め合う関係づくり、成功体験)
- ・望ましい集団活動の充実(話し合い活動の活性化)

〈児童〉

- ・学校は楽しい
- ・困ったことや悩みがあった時、先生は相談にのってくれる

〈保護者〉

- ・お父さんは、学校に行くのを楽しみにしている

	R1年度		R2年度		R3年度
90%	↗	95%	↘	90%	
70%	↗	85%	↗	95%	
94%	↗	96%	↘	93%	
91%	↗	93%	↗	94%	
89%	=	89%	↗	95%	

◆昨年同様に、「学校は楽しい」と感じる児童の割合が高いです。友達のよいところを見つけたり認め合ったりする活動を全学級で行っており、友達とのよりよいつながりができてきたことが、自尊感情を高め、集団への帰属意識も高めることに役立ったと感じます。

(3) 確かな学力の向上 【B】

〈教職員〉

- ・よくわかる授業づくり（教材研究，指示・発問，板書の工夫）
- ・表現力の向上（授業における発言回数の増加と発言内容の充実）

〈児童〉

- ・毎日の授業は，とても楽しい
- ・自分の思ったことや考えをよく発表している

〈保護者〉

- ・お子さんは，授業が楽しくわかりやすいと言っている
- ・自分の考えや意見をしっかりと伝える表現力が身についてきた

	R 1年度		R 2年度		R 3年度
	87%	↗	90%	↗	100%
	78%	↗	84%	↗	100%
	87%	↗	90%	↘	86%
	66%	↗	71%	↘	67%
	67%	↗	72%	↗	83%
	79%	↘	76%	↗	81%

◆全校体制でわかる授業づくりに努めながら、GIGAスクール構想で整備されたタブレットPCを効果的に用いて、基礎学力の定着、思考力や判断力、表現力の育成の向上を目指し今後も一層努力していきます。

(4) 人権教育・特別支援教育の充実 【A】

〈教職員〉

- ・弱者の立場に立った人権教育の理解と推進
- ・いじめ根絶と予防対策（何でも話せる学級づくり）

〈児童〉

- ・先生は，いじめのない学校にしようとしている

〈保護者〉

- ・子どもの人権を大切に，いじめのない学級づくりに取り組んでいる
- ・友達を思いやり，自他の生命を大切にしよう家庭でも働きかけている

	R 1年度		R 2年度		R 3年度
	80%	↗	100%	↘	95%
	100%	↘	95%	=	95%
	95%	↗	97%	↗	98%
	80%	↗	84%	=	84%
	95%	↗	97%	↘	96%

◆全校体制で、友達同士がよりよくつながる人権教育を推進してきました。「いじめや差別のない学級づくり」にも取り組んでおり、友達を思いやることや自他の生命を大切にすることを実感することができるような学習活動を行ってきたことが児童の人権意識を高めていると感じます。今後も学校と家庭が連携し、いじめや差別を許さず、友達を大切に，正しい知識と判断をもとに自ら行動する力を高める人権教育を推進してまいります。

3. 考察

- (1) 新しい生活様式に合わせた基本的な生活習慣が確立しつつあると思います。
- (2) 互いに認め合い支え合う学級の風土づくり、本音で語り合える学級づくりに全校で取り組んだことが、児童の自尊感情を高め、仲間とのよりよい関係性の構築につながりました。
- (3) 学習課題を明確にし、教材や板書を工夫したり指示・発問を明確にする授業改善の積み重ねが、学ぶ楽しさを高め、児童の学習意欲を引き出すことにつながりました。
- (4) 基礎的基本的な学習の定着、習熟を図ることや対話的な学習を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばす指導を継続して、さらに確かな学力の向上を図ることができると考えられます。
- (5) 全教職員の「いじめや差別のない学級づくり」への取組が、人権教育の推進につながっています。
- (6) 今年度も、従来の地域と連携した教育活動を実施することは困難でした。
- (7) 人権教育と特別支援教育を基盤に据え、一人ひとりのよさ、多様さを認め合い、支え合うことを目標とし、学校全体でその目標を共有し取り組んできたことで、児童や保護者の肯定的評価を得ることができたと考えられます。

4. 次年度の課題

- (1) 基礎的基本的な学習内容の確実な習得と思考力、判断力、表現力の育成
- (2) よりよい仲間づくりの推進（互いに認め合い支え合う仲間づくり）
- (3) 人権教育の推進（特別支援教育への正しい理解と啓発。正しい人権感覚の養成）
- (4) 主体的、対話的で深い学びの実現を通じた資質・能力の育成
- (5) 読書活動の推進（図書室の積極的な活用と読書活動の充実，家庭読書の習慣化）
- (6) 家庭との連携の充実（基本的な生活習慣の確立。学習習慣の定着）
- (7) G I G A スクールの実践研究及びSTEAM教育の推進